

令和3年度 第3回小平市図書館協議会要録

- 1 日 時 令和3年11月11日(木) 午後2時から3時30分まで
- 2 会 場 中央図書館 3階視聴覚室
- 3 出席者 委員：9名(欠席3名)
事務局：中央図書館長、中央図書館長補佐兼庶務担当係長、花小金井図書館長、サービス担当係長、資料担当係長、歴史公文書担当係長、上宿図書館長(計7名)
- 4 傍聴者 なし
- 5 配布資料
- ・小平市立図書館職員の異動について (資料No. 1)
 - ・小平市立図書館行事等の報告と今後の予定 (資料No. 2)
 - ・月別館別貸出資料数 (資料No. 3)
 - ・広域利用市別貸出 (資料No. 4)
- 6 職員の人事異動について(資料No. 1)
令和3年10月1日付で、図書館で6名の内部異動があった。
- 7 議事
- (1) 報告事項
- ① 図書館運営状況について
- ・小平市立図書館行事等の報告と今後の予定について(資料No. 2)
 - 10月は第三小学校、鈴木小学校、学園東小学校、第十四小学校で出張授業やブックトークなどを実施し、11月4日には、第四小学校からの図書館見学を受け入れた。本日以降も図書館見学や出張授業などを予定している。
 - 10月12日から中央図書館で乳幼児タイム(乳幼児とその保護者が、読み聞かせする声などを気兼ねすることなく滞在できる時間)を再開した。
 - 10月23日からは中央図書館2階展示ギャラリーで、「小平の寺子屋」というテーマで、小平の(古)文書等を展示している。
 - 10月28日と11月9日には音訳者講習会を実施した。
 - 11月6日、なかまちテラスのイルミネーションの点灯式を実施した。今年度の文字は「逢」。コロナ禍にあって久しぶりに会えますように、という思いが込められたもの。職業能力開発総合大学校教授の技術指導により、学生や市民らが手作業で取り付けた。

11月10日からおはなし会を再開した。12月にはクリスマスに関連させてスペシャルおはなし会の開催を予定している。

11月23日と12月18日にはZOOMによる子ども向けオンラインイベントを予定している。

年明けの1月8日からは、第42回ふるさとの新聞元旦号展の開催を4か所で予定している。なお資料中の大沼図書館の開催日程を、1月21日～27日に訂正させていただく。

1月の欄に、子育て応援セット、おはなしセット時期未定とあるが、本年度は本の福袋は実施しないが、時期や回数を絞ってパック物の企画を予定している。

・令和3年度月別館別貸出状況（資料No.3）

上半期のデータを報告する。8月の夏休み期間が終わり、若干利用が減ってきているが例年並み。登録者数は8月に比べて減っている。

・令和3年度広域利用市別貸出状況（資料No.4）

8月を過ぎ、9月に入って数字が少し下がってきている。

② 令和2年度決算特別委員会について

一般会計の決算は賛成多数で認定すべきものとされた。10月14日に教育部の決算審査が行われ、図書館関連の質問は5点であった。

1点目は、岡田しんぺい議員（フォーラム小平）から、国立国会図書館のデジタル化資料送信サービスの利用状況についての質問があり、令和2年度は17件の利用があったと答弁した。

2点目は、同じく岡田議員から、コロナ禍における休館中の予約貸出しについての質問があり、休館中でも本を回送し利用者に資料を提供し、図書館としての役割を果たすことができたことと答弁した。

3点目は、伊藤央議員（一人会派の会）から、令和2年12月市議会で採択された本の宅配貸し出しサービスの対象者拡大の請願のその後の状況について質問があり、他市の情報を収集しながら検討をすすめていることと答弁した。

4点目は、幸田昌之議員（市議会公明党）から、コロナ禍でブックスタート事業はどうなっていたかという質問があり、読み聞かせは休止したが、本の受け渡しは実施している。また、必要な情報を載せたQRコードが書かれた紙を一緒に渡すようにしていると答弁した。

5点目は、山岸真知子議員（市議会公明党）から、ハンディキャップサービス事業の取り組みについて質問があり、コロナ禍でも音訳ボランティアを募集し講習会を実施したと答弁した。

(報告事項についての質疑・応答)

委員：職員が小・中学校に出られるようになったのは良かったが、地域に偏りがあるように思う。ブックトークは手分けして行っているのか、それとも担当地域の図書館が行っているのか。

事務局：手分けをして実施している。

委員：別の月には、これ以外の学校からも依頼があるのか。

事務局：資料には現時点で確定しているものを掲載している。随時、追加実施していく。

委員：働きかけができるなら、願います。

会長：学校からの要請があつて図書館が動くことであり、主体は学校である。図書館はブックトーク等を行う職員の養成に心掛けている。

事務局：学校から問い合わせがあるので、日程等を調整して実施している。資料では偏りがあるように見えるが、日数が経てば地域の偏りは解消すると考える。

委員：新型コロナウイルスの感染拡大が多少収まり再開した事業等があるということだった。感染拡大に山谷がある中で、いかに利用者のニーズを捉えるかは難しいと思うが、感染症が収まっているこの時期に準備しておこうと考えていることはあるか。

事務局：昨年4月以降に配属された職員は、コロナ禍以前の状況を知らないので、そういう職員に事業を知ってもらい、その上で状況を見ながらできることを実施していくのが大事と考えている。

会長：学校からの申込は例年より増えているのか。

事務局：夏休み前は新型コロナウイルス感染症の状況が厳しかったので、受け入れができなかった。2学期になり学校活動も正常化してきたことで例年並みに実施できていると思う。

会長：ブックトーク等に関わる図書館の職員は、どのようにおはなしの練習や音読等の学習をしているのか。

事務局：館ごとに自主学習会を開催し、職員と小平市子ども文庫連絡協議会とで勉強をしたり、講師を招致して学習会を開くなど、研鑽している。

会長：おはなし学習会に参加した職員が小学校や中学校に行っているのか。

事務局：ブックトークは職員が行っている。児童担当の職員が勉強会などで練習し、意見交換も行っている。

委員：ブックトークの研修会は別に行っているのか。

事務局：毎週開催している児童担当者の選書会議の中で、ブックトークに行く職員が実演し、その場で指導する形で研修を行っている。

委員：お互いに勉強し合っているということですね。以前は、職員の中に熟練した司書の方が多かったが、その人たちに講師を依頼することはあるのか。

事務局：講師を依頼することもあるが、頻繁ではない。

委員：学校からのブックトークの依頼が増え、人手が足りなくなるという状況を想定しているのか。その場合、退職した司書の手を借りるという体制を考えているのか。

事務局：コロナ禍以前でも人員が足りなくなることはなかった。日程調整することで実施できている。

- 委員：盛んになり、人手が足りなくなるくらい依頼があるといいと思う。図書館など、外部からのおはなし会は子どもの刺激にもなると思う。
- 委員：小平市子ども文庫連絡協議会がブックトークの協力をすることはあるか。
- 委員：現在はない。
- 会長：ブックトーク事業が、学校との協力体制について学ぶ一つの機会になるとよい。
図書館の元司書職員を講師として学んでいることもあるということだが、そういう機会があるとよい。この流れで、やはり専門職の配置が望まれる。
- 事務局：現状では難しい。
- 委員：司書専門職がいなくなり、昔と今ではサービスの質に少しずつ差が出てきていると感じる。図書館として、専門職の必要性を訴えていって欲しい。
- 委員：ブックトークの自主学習会という形で、退職した専門職の方や小平市子ども文庫連絡協議会の方、職員等で集まり研鑽ができたらいと思う。技術が伝わらないのはもったいない。
- 委員：11月に鈴木小学校でおはなし会が再開された。小平市子ども文庫連絡協議会の会員が参加し、1～6年生（全校）で行った。学校側の受け入れ態勢が素晴らしく、管理職をはじめとした先生方みなさんが、子どもに聴かせたいという思いで待っていてくれたと強く感じた。担い手である小平市子ども文庫連絡協議会の会員たちもとても気持ち良かったと報告していた。
- 会長：校長をはじめ教員の姿勢が感じられる。図書館教育は大事であることを学校側に伝えていかなければいけない。

(2) 協議事項
なし

(3) その他

- 委員：統計表の項目の「その他」がわかりにくい。「視聴覚資料」とした方がいいのではないか。
それから前回は話したが、古文書や古記録、古完本、古写本などの「古」が付くものは、江戸時代よりも前の時代の文書を指し、江戸時代の小川家文書は古文書とは言わない。古書や古本は、古書店などで一般にセカンドハンドという意味で使われている。例外は古活字本で、これは江戸時代のものである。図書館の関係者はそれを知ったうえで使わないといけない。同じように『復刻』とは、元の本を版木に貼って彫り直したものを言い、写真でつくったものは影印と言い、復刻とは言わない。また、『発想』とは、民族の伝統に則った考え方であり、『独自の発想』というのは矛盾した表現である。
- 委員：「令和2年度小平市立図書館事業概要」の中で、なかまちテラスでは『図書館資料を基にした公民館講座の開催』とあるが、ここでの図書館資料とはどういうものか。
- 事務局：なかまちテラスは、図書館と公民館の両方の機能を融合させて相乗効果を出しているということによって運営している。例えばティーンズ委員会では、図書館の本、特に児童書を

中心に中高生にティーンズ大賞を選んでもらう取組を行っている。講座も開催しているので、本の読み方や図書館の使い方など、広い意味でも連携している。

委員：公民館と図書館両機能の相乗効果とあるが、なぜなかまちテラスにしかなく、中央図書館にはないのか。

委員：市民活動をしている団体が ZOOM の講座を公民館で頻繁に行っているが、IT 関係資料を置いて借りられるようにする、そういうのも相乗効果と言えるならどこでもやっている。

事務局：それ以外の図書館でも協力している事業はあるが、なかまちテラスは、より一体的に連携している。

委員：小平市子ども文庫連絡協議会の活動では、図書館を通して公民館の機能を使わせてもらったりするので、図書館と公民館はつながっている感覚はある。

会長：なかまちテラスでは、公民館講座に図書館資料を利用するなどの連携を考えた。今後、小川西町の再開発で駅に隣接するビルに、公民館・図書館・市役所機能が入るので、なかまちテラスをモデルにして図書館としてどういう働きができるか、考えていかなければいけないだろう。

委員：「小平市の教育」の中で、『他の図書館との相互協力』のところに、「小平市内の大学図書館等との地域連携や、相互協力については研究を進めている。」とあるが、具体的にはどのような状況か。

事務局：主に武蔵野美術大学との連携である。図書館の表示物などで協力している。

委員：大学と公共図書館の相互貸出はないのか。

事務局：小平市では行っていない。

委員：西東京市は武蔵野大学と連携している。小平市にもたくさん大学があり、連携していくといろいろな意味で発展するのではないか。小平市の図書館では間に合わないが、例えば、美術だったら武蔵野美術大学、幼児教育なら白梅学園大学、英語教育なら津田塾大学など、特に若者にとっては便利になるのではないか。

委員：小平市大学連携協議会（こだいらブルーベリーリーグ）で大学と連携している。なかまちテラスのイルミネーションは職業能力開発総合大学校との連携である。そういう情報を図書館側から発信してもらえないか。

会長：大学によってスタンスは様々である。しかし、紹介状があれば資料にアクセスできる。武蔵野美術大学には資料館もあり開放的である。大学には専門書が多い。単に見学するだけではなく何のために行くのかといった目的や利用者の姿勢も大事だ。

委員：花小金井図書館は貸出冊数が多く、利用率も高いと思うが、施設そのものは広さも含め豊かではない。将来的には計画的に広くするなど改善が必要だ。開館時間の問題もある。隣接する東久留米市は 9 時から 19 時まで、西東京市は 10 時から 18 時まで開館している。だが小平市の地区図書館は基本 10 時から 17 時までである。開館時間の延長を考えた方がいいのではないか。

事務局：以前から利用者から開館時間延長の要望はあるが、実態としては要望ほどの利用はない。サービスを限定して夜間の時間帯を開館している事例もあるが、他市等の事例を研究していきたい。

委員：なかまちテラスには 24 時間利用できるロッカーがあるが、どのくらい利用があるのか。

事務局：10箱分あるが、コロナ禍以前はあまり利用がなかった。コロナ禍で利用は増加したが満杯になることはなく、半数を超える程度である。

委員：遅くまで開館するようになったとしても、遅くまでやっていると安心して行かなくなる。

会長：市民のどの期待に応じてどのように図書館を開館するのか。現状、図書館職員を増やせない中でどうしたらシフトを組めるかが課題。延ばせるのなら延ばして欲しいというのが市民の要望だろうと思う。

委員：市民活動支援センターでは、朝・昼・夜の貸出を行っているが、夜の貸出の利用は少ない。市民活動をしている人ですらそうだ。費用対効果を考えれば困難だと思う。

委員：今は、働く側の労務環境も考える時代である。図書館職員の勤務状況も考えた上で、十分なエビデンスがあった上で要望する方がいい。

委員：10月28日の読売新聞に、読書週間に関する世論調査の結果が載っていた。読書する目的がこの20年間で「趣味・娯楽」の割合が増えてきて、実利目的は減ってきているということだった。図書館が本を購入するにあたっては、このような調査結果当は考慮するのか。

事務局：図書館では毎週1回選書会議を行っているが、利用者からのリクエスト状況やカタログ、現物を見て選んでいる。

委員：分野による割合は決まっているのか。

事務局：割合は特には決まっていないが、趣味・娯楽・小説のリクエスト・利用が多いので、それらの購入を多めにしている。

4 閉会